

- 7) BOURRELLY, P. (1962) Ulotrichales d'eau douce rares ou nouvelles. *Phykos* 1 : 34.
 8) SCHMIDLE, W. (1903) Bemerkungen zu einigen Susswasseralgen., *Ber.dtsch.bot. Ges.* 21 : 353,354.
 9) PASCHER, A. (1939) Heterokonten In *Rabenhorst's Kryptogamenflora* 11 : 991.

新 著 紹 介

汪 滄 溟 編著

「水産植物学」

(台北市重慶南路1段94号, 台湾中華書局印行。)
 (中華民國59年(1970年)元月初版。213pp64元)

1970年3月シンガポール, タイ国に海外出張した帰途台湾を三たび訪れた。約10日間滞在した機会に書店をまわって, 本を手に入れたと思った。台北市中央書店街の中華書局に新刊案内のタテ看板があったので, 早速買ったのが本書である。中国語で4篇からなっている。まず上篇は概論で水産植物の構造, 生殖, 生理, 生態, 分布が書かれている。中篇は下等水産植物の分類で, 分裂藻類, 鞭毛藻類, 雙鞭藻類, 珪藻類, 接合藻類が, 下篇は高等水産植物の分類で, 緑藻類, 褐藻類, 紅藻類がそれぞれ記述されている。末篇は經濟水産植物で, 藍藻, 緑藻, 褐藻, 紅藻にわたり30節をもうけて詳述してある。大学生および研究者用の専門書であるが, 記述内容は通論的である。しかし中華民國では水産植物学として珍しい本である。筆者が興味をもてる生態のところでは, 光線, 底質, 温度, 塩分, 棲息地帯, 海中森林, 適応のことが書かれている。分布のところは簡単で, 太平洋沿岸の海藻分布について岡村博士の論文を引用している。海藻群落のことは全くない。末篇はかなりくわしく, 藻類の利用で, 分布, 食用, 医薬用等の用途も詳しく書かれているのは, さすが戦時態勢の中華民國だと思った。なお編著者の汪滄溟氏は現在基隆市にある海洋学院(単科大学)図書館長として活躍されていることをつけ加えておく。

(谷口森俊—三重県立大学水産学部生物学教室)